

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50							
授業科目名 <英訳>		ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論I ILAS Seminar :Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I			担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉江 崇		
群	少人数群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期		受講定員 (1回生定員)		12 (12) 人		配当学年	主として1回生	対象学生 全学向
曜時限	金5		教室	共西12				使用言語	日本語
キーワード	日本古代史 / 平安時代 / 外交 / 王朝貴族								
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
[授業の概要・目的]									
【日本古代史研究書入門 - 社会・文化】 1冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。 今期は、渡邊誠著『王朝貴族と外交』を取り上げ、平安時代における外交の様相について考える。									
[到達目標]									
古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。									
[授業計画と内容]									
寛仁3年(1019)に「刀伊の入寇」と呼ばれる異族襲来事件が起こると、日本は、関係悪化を避けようとする高麗に対して警戒を強め、「敵国」視する姿勢をとった。こうした姿勢の前提には、政治外交から離脱する中で対外的軍備を解体していったという10世紀初頭以来の日本の状況があり、高麗に対して脅威を抱いた日本は、三韓征伐伝説を起点とする歴史認識を表出させることとなる。このような歴史認識とは関係のない中国に対しても、国際政治から離脱するという日本の外交姿勢は貫徹していた。他方、消極的な外交姿勢は、貴族たちの間に自尊意識の肥大化をもたらしていった。後白河院や平清盛が行ったとされる宋との外交も、基本的にはこうした姿勢の枠組みの中で理解されればならず、当時の外交を「開国的」「開明的」な政策などとして捉えることはできない。 渡邊誠著『王朝貴族と外交』を輪読しながら、こうした平安時代における外交の様相を把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。									
第1回 イントロダクション 第2回 平安時代の歴史像と対外世界 第3回 刀伊の入寇からみた外交関係 / 東北アジア情勢からみた刀伊の入寇 第4回 神国思想の成り立ち 第5回 九世紀の日本と朝鮮半島 / 十世紀の半島情勢と「積極的孤立主義」 第6回 「敵国」意識の高揚 / 呉越との交流 第7回 宋初の中国と日本 / 成尋の入宋と皇帝の賜物 第8回 異国牒状問題にみる貴族の政治 / 宋の積極外交と日本の対応 第9回 高麗医師派遣要請問題 第10回 日本の返牒と対外観									
ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論(2)へ続く↓↓↓									

ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論I(2)

第11回 日本人の海外渡航の禁止 / 南宋の成立と日本

第12回 後白河・清盛の日宋交渉の舞台裏

第13回 王朝貴族の外交のゆくえ

第14回 総括

《期末試験》

第15回 フィードバック

上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次による。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での報告および発言・50点）と期末試験（レポート・50点）の合計で成績評価する。

【教科書】

渡邊誠『王朝貴族と外交 国際社会のなかの平安日本』（吉川弘文館）ISBN:978-4-642-05967-1（2023年刊行、1800円＋税）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読箇所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

【その他（オフィスアワー等）】

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。